

Ⅱ 事業の概要

法人

(理事会機能の充実)

学校法人が急激な社会状況の変化に適切に対応し、様々な課題に対して主体的、機動的に対応していくため以下の課題を検討、実施することを計画した。

- ① 財務計画を含む中長期計画の策定
- ② 関係法令と会計基準の理解
- ③ 「自己点検・評価」書の検討と改善
- ④ 法人監事の評議員会出席と公認会計士との意見交換会の実施

1) 財務計画を含む中長期計画の策定の件

これまでとは異なる実効性のある計画書を意図し、理事会において設立の理念に沿って作成することが確認され話し合いの場が設定されたものの、大学のマスタープラン作成が遅れていることに起因するスタッフ間の進め方の相違などから、次年度以降への課題となった。

2) 関係法令と会計基準の理解

理事会体制の強化を図る趣旨の私立学校法の改正内容について、法人監事より理事会において説明が行われた。また、同法改正の趣旨に沿って寄附行為の一部を改正し、当法人のガバナンス強化を図った。

会計基準については、財務分析とシュミレーションについての説明を機会あるごとに行い、意見交換を行うことによって理解するよう努めた。ただし、専門家を招いての研修会を設定することができなかった。

3) 「自己点検・評価書」の検討と改善

大学基準協会への加盟と認証評価のために作成した「自己点検・評価書」の検討については、内容そのものが教育現場に関することが多く、理事会にはなじめない事項もあって具体的な検討に入ることができなかった。

今後は、教育理念、財政及び施設関係など検討内容を特化し、理事会でも検討することとしたい。

4) 法人監事の評議員会出席と公認会計士との意見交換会の実施

寄附行為改正後は、この規定にしたがって監事は評議員会へ出席し意見を述べ、また、監事と会計士との意見交換の場も設定することができた。

(学園創立120周年記念事業)

共愛学園創立120周年記念事業の進捗状況は次のとおりである。

- ① 幼稚園の駒形キャンパスへの移転
- ② 幼稚園、中学・高校、大学の共有施設の建設
- ③ 学園100年史（下巻）の発刊
- ④ 創立120周年記念事業資金計画と一般募金の件

1) 幼稚園の駒形キャンパスへの移転の件

本設計の完成を受けて建築確認申請と開発行為の行政手続きを行い、すべての認可を得て5月9日に定礎式を、9月17日には上棟式を挙行することができた。その後、やや工事は遅れたが予定のとおり2006年度から駒形キャンパスで移転開園することができた。これにより学園にとって10年来の懸案事項であった幼稚園移転が解決した。

2) 幼稚園、中学・高校、大学の共有施設の建設の件

共有施設については、候補として温水プール構想が浮上していた。しかし、完成後の維持管理の難しさや利用頻度などの問題もあって、その後は進展していない状況にある。

この代替案として、教育共有施設用地を取得することに決定し、ここにテニスコート等の教育施設を建設する案などが有力になってきている。

3) 学園100年史（下巻）の発刊の件

創立120年にあたる2008年秋までの発刊を目指し、共愛学園百年史編纂委員会において編纂を進めている。

4) 創立120周年記念事業資金計画と一般募金の件

変更後の総事業費約4億1,000万円のうち、外郭団体からの支援繰入れ予定額2億0210万円は確実の見込みである。岩神キャンパスの売却は土地の下落傾向もあって、1億5,000万円の売却予定が約3000万円減の1億2,000万円以下になるものと見込まれる。補助金は計画の3,000万円が、群馬県や前橋市からの交付もあって3,787万円が確定した。

一般募金は、「120周年記念事業推進委員会」を中心に目標の5,000万円達成を目指して募金活動を行い、前年度末までに3,621万円（達成率72.4%）の実績を上げることができた。この結果、特に現時点では資金的に問題はない。

大 学

(入学の状況)

特待生制度や奨学金の充実、広報活動、募集活動の積極的な展開、地域児童教育専攻の設置などにより、定員に対し26%増の学生を確保することができた。

2005年度 コース別入学概況 (入学定員200名、編入学定員20名) (名)

	国際社会専攻				地域児童 教育専攻	計
	英 語	国 際	情報経営	人間文化		
応募者	180 (3)	61 (4)	126 (6)	93 (2)	90	460 (15)
合格者	142 (3)	31 (2)	56 (6)	66 (2)	56	351 (13)
入学者	109 (3)	20 (2)	45 (6)	47 (2)	30	251 (13)

() 内数値は編入学

(地域児童教育専攻課程設置に伴う教員の採用)

地域児童教育専攻課程の設置に伴い、計画のとおり4名(音楽1、図工1、体育1、生活1)の専任教員を採用して、この課程の設置基準を満たすとともに充実を図った。

(教職課程「商業科」設置の検討)

学生確保の観点から検討した結果、本格的な学科増などの計画については、今後、財政面などを含めて慎重に検討することにし、配置を工夫することにより特に教員増を必要としない「商業科」の教職課程を2006年9月に申請、2007年度から設置する方向での合意を得た。

(自己点検・評価)

大学基準協会への加盟と認証評価のための申請を行い、大学基準に適合していることが認定された。これによって本学は質が高い大学であることが証明され、法律による第三者評価制度が開始されてから県内では国・公・私大を含め最初の認定大学となった。

だが、油断することなく3年後の総合評価申請に向け、①長所として特記すべき事項はさらに伸ばし、②助言事項は速やかに是正し、③勧告事項については、ただちに改善に取り組む必要がある。

なお、勧告事項は次のとおり。

- ・ 学生の受け入れ(定員の確保と退学者の取り組み)
- ・ 教員組織(設置基準上の必要専任教員数の確保)

(施設・設備等の充実)

毎年履行している前橋市からの借用地一部取得については、同市との間において岩神キャンパス幼稚園敷地 500 坪と等価交換の基本合意を得たことから、2006 年度に 2 ヶ年分と合わせて等価交換を行うことになり、2005 年度中の取得はなかった。

これは幼稚園用地の売却先探しが難しかったことから、先の飛地と同じく前橋市当局と交渉を行い等価交換の形をとったものである。

当年度からの地域児童教育専攻課程設置に伴い、音楽と美術（一部家庭科）の実技に供するための学芸棟を設置したほか、実技に必要な最低限の備品（電子ピアノ等）を整備した。構造はプレハブ仕様であるが、空調機も完備され本格的な建物になっている。

設備の主なものとしては、7 年前の大学開学時に取得したパソコン演習室及び自習室のパソコンが陳腐化してきたことから、国の補助金（1/2）を受けて 165 台入れ替えた。

(個人情報保護法に係る規定と組織)

個人情報保護法が施行されたことに伴い、個人情報基本規程のほか関係規定を整備・作成するとともに個人情報保護委員会を立ち上げて、学生やスタッフの個人情報が保護できるよう体制を整えた。

(進路の状況)

- ・ 2005 年度卒業生の進路状況は次のとおりである。

(名)

就職者	122
就職未定者	6
その他	25
進学者	11
計	164

就職率 95.3% (122/128)

- ・ 就職者の業種別進路は次のとおりである

(名)

業種	人数	業種	人数	業種	人数
サービス業	39	情報産業	7	印刷業	3
流通業	39	金融業	6	建設業	2
メーカー	8	商社	6		
自営業	8	官公庁	4		

高 校

(人事について)

当年度は、専任教諭への任用替えと新採用無し、専任講師への任用替え2名（非常勤講師）からと新採用3名、非常勤講師の新採用5名が行われた。

人件費が増加していることを考慮して、極力、専任教職員への任用を抑えていることもあって専任講師が多くなった。

(入学の状況)

ポスター作成・中学校訪問・新聞広告等の広報活動を行ったが、英語科特進選抜入試や普通科の一般入試の歩留率が見込みより低かったこと等により、2004年度よりも全体の応募者が約9%減、入学者が約32%減となった。これは、中毛から東毛にかけて共通して見られた。

入学概況（カッコ内は共愛中学出身者の内訳） (名)

	英語科		普通科	計
	特進コース	進学コース		
定員	90		332	422
応募者	186 (3)	221 (19)	600 (47)	1,007 (62)
合格者	106 (3)	184 (19)	541 (47)	831 (62)
入学者	18 (3)	80 (19)	196 (47)	294 (62)

(普通科は文科・総合・理数コース)

(生徒募集対策)

2005年度応募者・入学者とも減となったので、普通科の推薦基準についてこれまでの全教科の平均値3.2を変更して3.0に引き下げ、志願者増を図った。ただし、質の低下を極力防ぐため面接をより重視し、学習意欲のある生徒を選抜した。また、英語科特進選抜入試問題を工夫・改善した。

(特待生制度の充実)

特待生規程を一部変更し、学業優秀者・スポーツ等優秀者の両面から意欲のある生徒を確保し、より活気のある学校作りを行っていく。

その変更内容については、特待生S（入学時の入学金・施設費及び毎月の授業料・施設維持費を全額免除）の新設、特待生A（入学時の入学金と毎月の授業料を全額免除）・特待生B（入学時の入学金と毎月の授業料を半額免除）の人数増を行なった。

これにより、特待生の入学実績は下記の通りとなった。

(名)

年度	特待生S		特待生A		特待生B		計
	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	
2004	—	—	4	3	6	4	17
2005	—	—	3	1	2	9	15
2006	0	0	6	11	10	5	32

(広報活動の強化)

従来は、公立中学校訪問による広報活動が中心であったが、これを一層充実するとともに、学習塾に出向き、積極的な広報活動を行った。

(進路の状況)

この数年、4年制大学への進学志向が強く、4年制大学進学者が48%、短大進学者10%、専門学校進学者26%となっている。また、4年制大学の進学者の内68%が県外へ、分野別では語学・国際関係に38%、法学・経済・社会学関係に18%進学している。

(名)

区分	人数	区分	人数
大 学	158	留学予定	8
短 大	33	就 職	13
専門学校	89	浪人・その他	30

(施設・設備の充実)

家庭科調理室の調理台が老朽化のため、ガス漏れ等の心配があり、国の補助金（1/3補助）を受けて買い替えを行った。これにより、家庭科の授業の他・大学の調理実習授業・バザー等で利用することができた。

中 学

(入学の状況)

ポスター作成・小学校訪問・新聞広告等の広報活動を行ったが、推薦入試の基準を厳しくしたこと等により、2004年度よりも全体の応募者が約10%減、入学者が約8%減となった。

入学概況（入学定員90名）

(名)

	第1回入試		第2回	第3回	計
	推薦	一般	一般	一般	
応募者	29	41	21	10	101
合格者	25	28	16	9	78
入学者	25	26	16	8	75

(人事について)

当年度は、専任教諭への任用替えと新採用は無く、専任講師は新採用1名（任用替えは無し）、非常勤講師の新採用1名であった。

(進路の状況)

卒業者数54名中、共愛学園高校に内部進学した生徒は44名、他校に進学した生徒は10名であった。他校に進学した生徒の中には、他校を受験希望した者や、高校へ推薦する基準に達していない者もいた。

年 度	卒業者数	内部進学 者数	外部進学者数					計
			県内 公立	県内 私立	県外 公立	県外 私立	海外 留学	
2003	78	69	4	2	0	1	2	9
2004	74	62	6	1	2	3	0	12
2005	54	44	4	2	0	4	0	10

幼稚園

(園児募集)

園児募集を強化するために6月の幼稚園開放、HPのリニューアル、月間プラザへの広告のほか、新しい試みとして12月にオープンクリスマスを行った。